

第6号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費を含む



発行 檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX (52)1490
発行責任者 石橋 英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

このままではいけない

声を上げ続けまます

戦争法案反対！ 檜山教組決起集

この日、衆院で法案が強硬採決
「ここからが始まり」と決意新たに



民意無視の暴走政治にNO!

七月十六日昼、戦争法案（安全保障関連法案）が衆院で強行採決されました。政府与党による暴挙に、国中から怒りの声と行動が湧き起こったその日、檜山教職員組合は、組合員決起集会を開きました。平日の夜、職場からまっすぐ会場に二九名が駆けつけ、二〇の職場からの参加となりました。前段、「戦争法案」の内容とね

2015原水爆禁止世界大会代表派遣 みなさまのご協力をお願いします

核兵器の禁止と廃絶を求める声が世界中に広がっています。そのなか、被ばく70周年の原水爆禁止世界大会が開かれます。この節目の大会に、檜山の管内・域内からも代表を送ろうと、「代表を送る檜山の会」が結成され、とりくみをすすめてきました。要請を受けて、大成中学校の富樫耀さんが8月7日～9日の長崎大会に参加することになりました。自分の目と耳と肌で感じとり、学びとれるものを大切にしたいと熱い抱負を語ります。会では代表派遣を支える募金活動と呼びかけています。事後報告など環流する場も予定されています。みなさまのご協力を心よりお願いいたします。

詳しくは、最寄りの組合員か檜山教職員組合までお問い合わせください。

参加代表者紹介

氏名 富^と樫^が耀^しさん (25才)
勤務校 せたな町立大成中学校教員
ことば 「この度は、貴重な機会を頂きまし



てありがとうございます。戦後70年となる節目の年。戦争体験に関わる見聞が乏しい自分にとって、学ばせていただけるのは、身に余る光栄であります。教科書や本にある言葉のみならず、生のものから多くを感じ取り、他の方々とも共有できるよう努めて参りたいと思います。よろしくお願ひいたします。」

らいなどについて学習した後、車座になって一人ひとり、今の率直な思いを述べました。（発言要旨は第二面）
生活者や親としての不安や願いが語られるとともに、法案をめぐる動向を子どもたちが敏感に感じ取っている事実も交じり流されました。（発言要旨は第二面）
最後に、全員で暴走政治ノーの意思を示して散会しました。



発言する参加者

明日へ続く『今』、私たちは…

戦争法案反対決起集会での発言



発言する参加者

戦争法案反対決起集会では参加者全員が発言しました。発言要旨をシリーズで紹介していきます。

流される日々でも、立ち止まりなが

「何か、行かなくては」と推されるような気持ちで集会に参加した。普段、仕事を終えて家に帰り、夕食を食べたらずぐに寝てしまうというような生活が続いている。でも、きちんと立ち止まって考えるきっかけを持たなくては、という思いで、今日やって来た。長いこと教職生活をやっていて、現状の重苦しさにつらく思うこともしきり。でも、や

時限爆弾を抱えながら

首相の傲慢さに憤り。「国民を馬鹿にするな」と言いたい。子どもたちを「殺し殺される」状況に本当に追いやることに。強行採決を見て中学年の娘が、「もしかしたら自分たちが戦争に巻き込まれちゃうの」と不安そうに語った。戦争法案を許したら時限爆弾を抱えてしまうようなもの、何とか廃案にしたい。

平和捨てた国と見られる危険

沖縄や国民を見下した態度、安倍政権の傲慢がとにかく目につく。テロを生み出す

はり子どもたちにむき合う仕事である以上、未来への希望を持ちつついたい。立ち止まりながらも進みたい。

危険につながる。海外旅行の際は、テロへの注意を相応に払うが、九条捨てた国、不正義の戦争に加担する国、侵略者と同じと見られると、もう海外旅行時の注意だけでは済まなくなる。とんでもなく危険な事態になることは明か。

命の重み分かってない子や孫のことと思うと

何のメリットがあつて戦争法案の成立をと不思議でならない。やり方もひどい。議会

歴史に逆行 膠着状態どうして

ルールも民主主義も踏みにじられている。昔は、政権党であつても少数との調整をそれなりに果たしていたが、今は微塵も無い。自分は戦場に行かないという魂胆か、人の命への思いやり全く無い。子どもや孫のことを考えると、本当に気持ちが悪く。

無責任な大人であつてはいけないと…

「国民の理解を得て」と言うが、力で一方的に押しつけるだけで、羊と狼の関係。それにしては政権党の膠着状態は危機的。どうしてこんなに囚われるのか理解できない。

現実感薄い戦争でも気づいた時には

憲法九条は、これまで普通に学習し、平和は当たり前定着。戦争への現実感が薄く、呑気だと思われてしまう自分がある。でも、気づいた時には遅かったということになるのでないかという、危機意識を持っている。

「地域づくり」にも着目して

奥尻高校、町移管後もバックアップを



発言する参加者

七月二十五日、檜山学区の公立高等学校配置計画地域別検討協議会が開かれました。六月に示された計画案を

受けたもので、各町の教育長や中学校、高等学校、PTAの代表などが出席しました。道教育庁からの説明を受け、意見が交換されました。

難や、そこに生まれ育つ子どもたちの実情に添った十分な支援が求められます。協議では、地域づくりの観点から学校の在り方を探っていくことの重要性を提起する発言がありました。

来年度、奥尻高校が町に移管されることについて、「生徒減の中、(学校存続に向け)町挙げて頑張るだけ頑張りたい」として、中高一貫制度の運用を視野に入れた対応策が明らかにされました。移管後も、離島が抱える固有の困

の存立は地域の在り様に直結し左右されます。高校配置の制度設計を図る上で、地域づくりの政策とアイデアアップして検討されるべきとの議論は古くて新しい課題です。

高校配置計画検討協議会檜山学区



町移管となる奥尻高校

起する困りごとがあります。「地域づくり」は今や全国的、全国的な課題となっており、緊急性も伴っています。学校

「地域の中に立ち、地域に還っていく」学校と教育の在り方も含め、高校配置をめぐっても、抜本的で多角的な議論が求められています。